

【資料】

身延山歴代略譜（第二回）

(15オ)

廿二世心性院日遠上人 日重上人剃髮ノ弟子」
京都ノ人也 姓ハ藤原石井氏幼名岩千代九六才ニ
ノ出家ス」字ハ堯順又タハ堯純日珍ト自ラ号ニ
道」

御父入定院了玄日幽 天正四丙子年十月二日和歌ノ宗匠ノ家也ト」
御母最勝院法妙日喜又ハ日悦ト 天正十五年正月十一日

京妙傳寺八世 本満寺十四世 飯高三世講經主ヨ

リ延山へ入」

慶長九^{甲辰}年春三十三才入山 在位五ケ年」

寺中万代之法式廿一ケ条 慶長九^{甲辰}七月廿七日

乾遠兩師判形」

町中万代之提廿ケ条 全年十一月七日定之」

西谷檀林万代不易之法式定^レ之^之是^レ今情録ト云フ」

宗祖眞骨ノ宝蔵^{三間半}方建立 慶長年中養珠院殿寄附」

祖師廟堂^{八角半}全拜殿^{三間半}全廊下 遠師ノ棟札ニ「慶

長十一^{丙午}三月日祖師聖人ノ石廟從^ニ堂地上^ニ奉^レ

移^ニ此塔頭靈地^ニ以^レ次修^ニ理八角堂^ニ者也」

身延山歴代略譜（北沢）

(19オ)

會合所過去帳上中下三冊遠師代造之同師ノ筆」

厨子^{十二間}遠師建立棟札 黄金百両庫裏造営ノ」

助成^{佐人}加治左馬助丹治家信 慶長十三年戊申 夷則良辰」

慶長十三^{戊申}年十二月退^ニ院大野^一」

大野本遠寺開祖^{紀州養珠院初ハ蓮華院ト云徳川家康ノ愛妾ニシテ}

養珠院殿妙紹日心大姉^{承応二癸巳年八月廿一日他界紀州領宜水}

又^タ西谷岸中興開祖 紀州養珠寺 水戸大田蓮華

寺 仙台」法運寺 貞松蓮永寺^中歴 千駄ヶ谷仙

壽院^{休遠ハ弟子}各開山^{最モ養珠院ノ開基多シ}池上十六世^{比余谷}

本門寺ハ日樹異流遷流ノ跡依^ニ台命^一住職ス全山

ニテ迂化ナリ」

亨師ノ云ク乾遠兩師ノ在住都テ無^ニ旧記^一大野本遠

寺ニモ又無^ニ記録^一是ノ故ニ難^レ知今依^ニ草山集^一

乾遠ノ録ヲ見ルニ十九世日道師ハ慶長^{六^{辛丑}年}

閏十二月十二日ニ迂化ス依^レ之慶長七^{壬寅}春請^ニ重

師^一堅ク辭^ソ不^レ応故ニ請^ニ乾師^一全年入山シテ翌

八年^{癸卯}婦^レ京次ニ全九^{甲辰}年請^ニ遠師^一春三十三

才ニノ入山ス在位五ケ年ニノ全十三^{戊申}年^一十一

月十五日ニ有^テ淨土宗^ト与^ニ常樂院日經^一之法論^ニ依^レ

身延山歴代略譜（北沢）

召至^ニ駿府^ニ請^ニ再対決^ニ家康憤激ノ為^ニ宛^ニ死罪^ニ雖^レ然四ヶ^ニ格言停止ハ不^ニ請合^ニ其ノ後蒙^ニ宥恕^ニ帰^レ山直ニ退院^ニシテ隱^ニ居大野本遠寺^ニ全十四^ニ己酉

年乾師再ヒ入山位六ヶ^ニ年ニノ全十九^ニ甲寅歲隱^ニ居西谷檀林^ニ此ノ年祝師西谷化主ヨリ入山在位

二ヶ年四十九才ニテ^{慶長廿乙卯}五月七日迂化ス此

年依^ニ台命^ニ遠師再ヒ入山ス此ノ時南光坊天海僧

正井ニ録司金^ニ地院崇傳等告^ニ上意^ニ書翰有^レ之翌

元和二^{丙辰}年^ニ亦辞ノ帰^ニ大野^ニ依要師小室ヨリ入^ニ居ス依^ニ左右年限^ニ者乾師ハ在位^{初ノ五年}再二年^歟遠師ハ在位

再住ノ次第^一

道師⁽¹⁰⁾三年⁽¹¹⁾乾師⁽¹²⁾五年⁽¹³⁾祝師⁽¹⁴⁾二年⁽¹⁵⁾

遠師⁽¹⁶⁾二年⁽¹⁷⁾要師⁽¹⁸⁾八年⁽¹⁹⁾深師⁽²⁰⁾五年⁽²¹⁾暹師⁽²²⁾二年⁽²³⁾

慶長⁽²⁴⁾二十^{乙卯}年再入山^{在位二ヶ年}

元和二^{丙辰}年亦辞ノ退院帰^ニ大野^ニ

寛永七^{庚午}年池上日樹左遷ノ跡依^ニ台命^ニ住山ス十六

世ナリ^一

全十九^{壬午}年三月五日七十一才於^ニ池上^ニ入寂^一

辞世 誰カ知ラン心ノ月ノ雲晴テ

静ニ光ル玉ノフリカハ^一

自読一万余部^{部數身延寶藏ニ有之}

〔註〕

(1) 飯高ニモ遠師御定ノ万代不易ノ式アリ

(2) 文政十二年焼失^ヘ頭註^ニ

(3) 依テ十四年日乾師再入山ス

(4) 「千駒ヶ谷」を「千駄ヶ谷」と訂正

(5) 「休閑」を「休遠」と訂正

(6) 什門派京妙満寺七世

常樂院日經聖人 不惜身命師ト云著述數多アリ

元和六年（八氏）十一月廿二日化

慶長十三年ノ秋頃浄土宗ノ琢道ナル者類リニ我宗

ヲ嫉妬ス經師然スルニ忍ス之ヲ糺明ス進ンテ善導

寺等ノ五ヶ寺ニ難問ヲ試ル然ルニ彼等法義ノ勝ツ

ヘカラザルヲ以テ遂ニ芝増上寺廓山ニ付キ上訟シ

テ吾法ヲ滅却センコトヲ哀請ス於是乎家康公我ニ

命シテ曰念仏無間ト云フ法門確實ナル証文アリヤ

ト我復命シテ曰ク証文モト顯然タラスト雖而モ義

ヲ以テ之ヲ判スト云云公之ガ捧狀ヲ廓山ニ与フ是

テ遂ニ東叡山建立奉アリト 金山抄

見

次ニ更ニ武城殿中ニ於ケル彼等ノ暴悪ヲ発露セン

曰ク同年十一月十四日經師台命ヲ蒙テ江戸ニ着ス

ルヤ彼徒隙ヲ窺フテ旅舎ヲ襲ヒ師弟六名ヲ乱打ス

哀哉頭腦ハ碎カレ手足ハ折ラレ魂^レハ殆ント消ナン

トス明レハ十五日戸板ニ乗シテ殿中ヘ引入彼^レ虚

言シテ曰ク日經答ル能ハズシテ虚病ヲナセリト遂

ニ迫テ書判セシメントス師ハ既ニ半死ニシテ言句

ヲ出スニ由シナク痛苦太タ堪スト雖モ更ニ之ヲ肯

ンゼス此ヲ以テ苦責ヲ加フルコト殆ント五十有余

日ニ及フ雖モ然敵トシテ猶ヲ之ヲ諾セズ遂ニ赦^レル

シテ之ヲ放ツト雖モ遺恨尙未散明年京都ニ於テ師

弟ノ耳鼻ヲ切斷スルニ至ルト

此夏師ノ本尊脇書ニ有テ詳ナリト 見テ者 既ニ當時

法門ニ非ス棒門ナリト云世評アリト云フ 貼附

事故アリ

(7) 在「位」か(私云)

(8) (入山ス)ト

(9) 入化トモ (11) 入退 (12) 入退 (13) 入退

(14) 入化 (15) 入退 (16) 入化 (17) 入化

(18) 入

身延山歴代略譜(北沢)

(17オ)

廿三世慧眼院日祝上人 遠師ノ門人初ハ日誡ト云

フ

慶長十九 甲寅 年乾師退院ノ後依^レ命西谷化主ヨリ直

ニ入山 在位ニケ年

翌二十 改元トス 乙卯 年五月七日四十九才入寂

廿四世顯是院日要上人 遠師ノ門弟

父ト祐 文禄元壬辰八月十三日

母ト妙正 天正十一癸未正月五日

中村 正東山日本寺化主 京妙傳寺九世 小室山十

一世

元和二 丙辰 年小室山ヨリ入山 在位ハケ年

要師梅松丸 弟子 字天慧ト云法性院日勇上人ナリ 慶安三

三月廿 十三日 西ノ洞院參議時直卿ノ次男ナリ竹之房ヘ

住ス十五世京山科檀林護國教寺開山京妙傳寺十

四世四十七才化ス当山三十世寂遠通師ノ御師範ナ

リ

七面山 法藏院日照 赤沢妙福寺歴代

別當ハ 一 五重塔 三間四方 建立 要師棟札 元和四戊午年五月三日

十月成就十一月十三日 ロリ 十五日マテ三日間塔供養ナリ 施主ハ加能越三國ノ大守松平

身延山歴代略譜（北沢）

肥前守「從三位中納言源利常ノ母堂法名壽福院殿

花岳日榮「大姉ノ建立也寛永八年辛未年三月六日卒去」

奥ノ院祖師堂六間四間全拜殿七間半要師建立棟札

施主ハ壽福院建立ト

祖師堂家根替元和七年丙申全八壬戌兩年諸國勸化學僧懸破

通本橋二二間全廊下八尺要師建立

元和九癸亥年七月五日四十八才入寂

(18オ)

〔註〕

(1) 「祖師家」を「五重塔ナリ」と訂正

(2) 文政十二年焼失

(3) 新築力再建カ

(4) 文政十二年焼失

(5) (全) ヨリ廻(廊下)

廿五世妙寂院日深上人 乾師ノ門弟子

祖母妙仙 七月二日 父法顯日性 慶長五年丁酉四月廿六日 母妙紹日理 寛永十五年庚申七月五日

本師ハ 日明大徳文縁乙未 堺奥覚寺ノ衆

京本満寺十五世 六条檀林ノ化主 箱根本迹寺開

山

元和九癸亥年 入山 在位五ヶ年

大鐘 遠師代企シ之深師代ニ鑄レ之遠師ノ奉加帳土蔵

ニ有之銘者乾師ノ「作ナリ寛永元甲子年八月

如意珠日西谷ノ禪門道順諸國勸化ス存」命中

ニ不レ遂ニ所願シテ逝ス養珠院殿從レ初已来

加三助力ニ成就スト

宗祖真骨之宝塔ヲ造作寛永元年甲子十一月入用金等諸堂記ニ有之深師ノ筆記ナリ

寛永四丁卯年十二月廿八日五十四才入寂

(18ウ)

廿六世智見院日暹上人 遠師ノ門弟 字隆忍

拾要抄 西谷名目撰錄著作

父徳慶院宗府日聚 元和七年丙申六月九日 養母 寛永元年甲子十月十日 母母敬院妙珠日遊 寛永三年丙寅七月十一日 養母 学仙院法親日

本師ハ大扇房日治 三月二日 京本満寺

應ヶ峰 小西 阿檀林之化主 本満寺十六世

寛永五戊辰年入山 在位二十一年

二度目ノ不受不施論寛永七年庚午二月廿一日巳午ノ刻於江戶西井羅桑頭殿ノ毛問答対決ナリ

自 身延日暹 全 日乾 前住 日遠 薬原日東 玉沢日暹 全 日乾 前住 日遠 薬原日東 玉沢日暹

本山摩化主心了院 列座六人ナリ

他 池上日樹 平叔日弘 中村 化主日充 碑文各日進 小西

日領 中村前住日賢 列座六人ナリ

(19オ)

(19ウ)

聽主天海大僧正 道春法印 永喜法印 奉行衆五人

〔9〕 日樹弥邪義ニ落居シ遠嶋ナリ

通本ノ二字額 太虚菴光悦寛永八辛未八月廿七日

妙見宮三間半建立 遍師棟札寛永十三丙子年八月廿五日

會合所二十七間半 遍師棟札寛永十三丙子年八月廿五日 主日

遠上人李加 助力 養珠院殿今村傳四郎等ナリ

〔12〕 小方丈六間修治 寛永十四丁丑年七月是日 日還判形

対面所八間次間建立 遍師棟札寛永十五戊寅年 六月廿四日

施主松木受源院妙徳日行

三門十三間廊門左右各五間建立 寛永十九年壬午六月十二日 建立成

就供養本願主甲府松木氏ノ母御助成金二百兩 日還

上人日還判形

千仏造立并全堂三間半 寛永廿年癸未臘月十六日 願主 養

珠院殿并堂三間半

三門十六間羅漢像 日還師開光 一体宛ノ施主有之

丈六ノ釈尊并四天王中正院日還ノ作 堂六間 棟札日還判形

但シ千仏堂ノ千仏ノ像ヲ寛文五乙巳年廿八世日還

上人ノ代至リ此丈六堂ヘ 撰入シテ千仏堂ハ三光

身延山歴代略譜(北沢)

(20オ)

堂トス

一切経蔵六間建立 正保二乙酉年閏五月廿五日 日還判形

〔14〕 浴室七間新築造 正保三丙戌十月廿七日 日還判形

逢嶋ノ祖師堂三間一尺 方 遍師発願建立棟札ハ慶安三庚寅

年 八月吉日 日城判形

甲州富竹村大廣寺開山也 西谷善学院ヘ隠居ノ還

化スト有レ之 ナレト退蔵ノ年限不詳西谷檀林ノ

七世智性院日還師ハ 寛永廿年 癸未 十月廿四日 迂

化ノ後絶講廿余年也廿六世日還師 隠居此院 迂

化ス廿八世日還師雖有談林再興ノ志願ニ未レ果

迂化ス第廿九世延師代再興ス興源院日還ヲ談林

第一八世トナス講三文句 寛文八戊申年也 慶安元戊子年五月廿九日六十三才入寂

〔註〕

(1) (日号を欠く)

(2) (蔵ケ峰) 二

(3) (小西) 九

(4) 守玄院

(5) 相馬ヘ配流

(6) 日樹ノ弟子

身延山歴代略譜（北沢）

- (7) 三河日賢ト云フ
 (8) 正中山ノ前住氏九世ナリ除歴
 (9) 日樹ハ朗惺寺ヨリ入山歟全寺ニ於テ不受不施ヲ衆人ニ示シ身延無間山ノ義唱フ依テ全年四月信州伊奈郡ヘ御預トナル与党ハ皆ナ被追放
 (10) 寛永八未年大土三百五十年（頭註）
 (11)(12) 文政十二年焼失ス
 (13) 代「二」を欠くか（私云）
 (14) 文政十二年焼失ス

廿七世通心院日境上人

字徹長

中村檀林ノ化主

慶安元 戊子 年入山

在位十二年

三門葺替

通師初テ建立ノ時ハ土瓦也屋根重ク又々寒氣破損ス
 故ニ改テ檜皮屋根トス

慶安二年 己丑 六月良日日境形判当町当国駿州ヲ勸化

ス

七面山ニ付

赤沢村兩畑村山境論所仰奉行三上平七郎久留七良右衛門雨宮治良右衛門大樂六兵衛ノ四人奉行立合見分ノ処久遠寺役僧正光院出翠七面同地ノ佛ハ久遠寺ヲ配ニ被仰レ付候事 慶安四年

位牌堂三間半

建立

位牌堂三間半

建立

慶安四年 辛卯 棟札 日境形判

(21オ)

一切廢経 輪堂 廢経ハ倭本
 身延山久遠 東嶺山板ナリ
 (3) 明暦二年 丙申 二月六日

日境形判

堂ハ先年退師代ニ造立シテ有之

傳大士 普建之像

退師開光ナリ是モ藏経ヨリ前ニ安置スル歟

万治二 己亥 年十月廿八日五十八才入寂

(註)

(1) 中村惠雲円公ノ門人ニノ飯高ヲ去テ中村ニ帰スル七十余人之上首ナリ

(2) 文政七年焼失ス

(3) 久遠「寺」を欠くか（私云）

廿八世妙心院日奠上人

始メハ日伝
 入山ノ時奠ト改
 字宜道

中村檀林ノ化主 九世 加州滝谷十七世

西谷名目解 等著作

蓮池院法安砂隆 寛永十一 甲戌 十月廿六日

万治三 庚子 歲入山 時ニ四月廿八日ト 在位八ケ年

往古ハ奥ノ院上ノ山ノ諸堂ニ本堂祖師堂近所ニ狹隘羅列ノ見分モ不レ宜又奥院ノ道嶮難ニ難通

(21ウ)

奠師代執事 堯達日精号ニ「正」院ニ与ニ貫主ニ相識

ノ開ニ諸所ニ平ニ嶮地ニ移ニ諸堂、又開ニ奥院道ニ「広」

之平レ之令レ易ニ往還ニ又ハ三光堂辺ニ至水屋上迄是レ

多ク他領ナリ水屋ノ上ノ山ハ下山村分ナリ計策

ノ当山ノ為ニ所領ニ植レ樹立レ社莫太ノ勲功也」西谷

「円正坊ヲ開基ス」

天照八幡社ノ事 初ハ片隈ニ立レ社 奠師代又開山ヲ

移スニ 其後今ノ折藏堂ノ地ニ引移ス 奠師代又開山ヲ

五重塔 奠師代位牌堂ノ奠師代寛文三壬寅年十月吉日今ノ地ニ移ス

施主ハ壽福院殿ノ彦子加賀守綱紀公此料八百兩御

寄附」

御真骨宝藏 此宝藏中古 在昔ノ拝殿ノ中央ノ地ニ奠師代寛文三壬寅年中」 円正院日精ト相識ノ上後ノ山ヲ大分切ニ開之埋ニ東ノ方ノ

靈宝藏 三間四方奠師代建立之」 拜殿三間半三間四方奠師代建立之」

東照宮 三尺五寸新建 大分ノ奠地御師重ノ御朱印拝受故ニ」

利女堂 本ト祖師堂ノ上ニ有之 寛文二壬寅 十月吉日今ノ地

ニ移ス日奠形」

三光堂ノ拝殿 奠師ノ寛文三癸卯九月如常日拜殿朽損故ニ新ニ

身延山歴代略譜(北沢)

(22オ)

無之ニ

奠師代祖師堂ヲ欲レ改ニ銅瓦ニ雖レ有ニ諸國勸化ニ有ニ事

故ニ不レ成」以ニ其集金ニ処々修營残金五十兩ハ後代

石壇料ノ内ヘ用レ之トナリ」寛文三癸卯年正月」

三光堂 本ト千仏堂ナリ往古ハ祖師堂ト位牌堂トノ間ノ上ノ山ニアリ」

丈六堂 往古ハ本堂ノ前二天門ノ側ニ有之 日奠形」

大黒天ノ堂 往古ハ祖師堂ノ上ノ山ニアリ奠師今ノ地ニ移ス」

惣門 三間半ニ 新建 寛文五乙巳年九月吉日棟札日奠形」

施主ハ三浦志摩守明教ノ母壽應院殿」

釈尊位牌堂安置 寛文六丙午八月日日奠形棟札有之」

下馬札表門 奠師代初テ立之」

一切経蔵 往古ハ本堂ノ上ノ山ニ有之 奠師代 移ス」

一祖師堂銅瓦葺ノ続キ」勸化寮ノ序 一枚代一瓦七分五厘ツ、

右作処ノ」銅瓦脱師代祈禱堂ヲ葺ク其ノ余残リ瓦

ヲ潰シテ省師代ニ水鉢」等トス又経蔵建立ノ時キ

其残リ瓦ヲ用イ不足ハ大坂ニ於テ求之」日寧師

代」

寛文七丁未年十月廿三日六十七才入寂」

身延山歴代略譜（北沢）

〔註〕

(1) 日寛日鑑両上ハ法兄弟ニシテ中村庵ノ西法眷也ト

〔墨字〕 〈頭註〉

(2) 「義道」を「宣道」と訂正

(3) 谷中妙行寺開山ト

(4) 瓶建寺院ハ泉野常樂寺、卯辰三宝寺、蓮華寺、能

州柳田淨心寺、越中新川法光寺、妙輪寺（墨字）

〈頭註〉

(5) 廿 氏

(6) 安国院日誦上人 字恵雄、野呂廿世ト、日向へ謫

流在嶋三十三年、元禄十一^{戊寅}三月十日化七十三

才

寛文六^{丙午}春破篋記上下二卷作、全年四月十七日

附ケ守正護国章ヲ寺社奉行へ献ス四代家綱公ノ時

也

中古法乱ノ殿争猶ヲ甚タ猖獗ニシテ平賀日述小湊

日運碑文谷日晴奥津日蓮谷中日誠等再ヒ朋党ヲ結

ンテ不受不施ノ異義ヲ唱ヘ大ニ法乱ヲ惹起ス去ル

承応元^{壬辰}年春先師境上委ク公庁ニ達シ糺明セラ

レタリシガ事未タ半ニシテ迂化ス故ニ尊師再ヒ之

ヲ官ニ告テ以テ境上ノ獨ヲ統キ武府ニ停錫スルコ

ト三春秋其ノ間大ニ問難論詰邪ヲ開キ妄ヲ駁シ奥

門ノ一輩ノ邪義ヲ撃退スルニ頗ル努メラレタリ其

(22ウ)

ノ一たび破奥論ノ著ヲ公ニセラルルヤ異流邪党ノ
輩ハ悞然トシテ戰慄震懼シ或ハ流ヲ乱シ遁走シ或
ハ風ニ靡シテ降附ス漸ク全異党ヲ殲滅セラレケレ
バ法乱全ク效ニ戡定ヲ告ケ平賀日述等逐敵ニ処セ
ラレタリ〔貼附〕

(7) 滝谷ヨリ

(8) 焼失ニ付再建、後ニ記ス

(9) 上ノ山カ

(10) 文政十二年焼失ス

(11) (大分) トハ余程カ

(12) 文政十二年焼失ス

(13) 朝師ノ建立ナリ

(14) (15) 退師ノ建立

(16) 則チ上ノ山ナリ

(17) 則三光堂ノ前カ

(18) 退師代建立

(19) 廟ハ上ノ山

廿九世隆源院日鑑上人

初ハ延ナリ
入山ノ時

延ト改 字春山

中村小西両談林化主

父 道隆日妙 寛永四^{丁卯}五月十七日
母 妙隆日法 寛永十七^{庚辰}二月九日

本師ハ教法院日悦 二十一日

(23オ)

① 玉沢歴 京妙顯寺十五世

寛文七丁未年妙顯寺ヨリ入山 在位六ヶ年

奥ノ院祖師堂六間四方外エン 拜殿七間半再建立 蓮師代

但シ別当寮孝東院八間ハ新建ノ置番僧

⑤ 西谷講堂七間半寛文九己酉年建立

江府安藤老岐守重常為慈父伊賀守蓮行院殿追

善喜拾黄金卷千兩建立之棟札日蓮形但シ

檀林ハ八世興源院日蓮代ナリ

常經堂五間四方外エン 衆寮二間半廊下二間食堂四間半新建立

寛文十庚戌四月廿四日 日蓮判形 深侶日慈

上ノ山宝塔一丈六尺 新建立 寛文十庚戌十一月中旬 起立主

豫州松山城主松平隠岐守源定長為悲母養仙院殿

了榮妙護日立大姉菩提建之棟札日蓮形

上ノ山常唱堂三間半 衆寮四方 寛文十二壬子三月廿八日 新建立

本願 無安日養 日蓮判形

宗祖御真筆御文章 卷本九十五卷 束テ卷百三十二

寛文十二壬子歲孟春廿九世日蓮代表裝不殘改之

古法眼越前守元信ノ絵座鋪小方丈也 蓮師代恐レ有ニ火

身延山歴代略譜 (北沢)

(23ウ)

盜難并ニ損取之表補為大小三十二幅土藏收之

石壇二百八十七段 蓮師通師兩代ニ成就ス

寛文十二壬子三月廿八日閑居ス六十四才ノ時 退

延宝九辛酉年正月廿七日七十三才羽州和田ニテ化

(註)

① 才十九嗣法トナリ

② 甲州円井村妙淨寺ノ開祖トナル

③ 施主將軍家綱公御台所円明院天真日存尊儀也 奥ノ院樞椎寛文八戊申 応鐘如意珠日日蓮判形

④ 奠師代

⑤ 是ハ明治八年火災ニ付一時本院へ引仮祖堂トス今ハ釈迦堂是也 (昭和五十四年解体す、私云)

⑥ 尚又能化寮ハ妙了寺十五十八世中道院日秀檀信徒ヲ勧誘シテ建立ス明治八年火災ニ付本院ノ仮厨司トス且ツ玄寮妙玄庵モ本院へ引キ仮方丈トス然ルニ明治十五年十一月廿四日昼厨司ヨリ出火此ニタ棟ハ灰燼トナル

⑦ 御廟上ノ山蓮師堂アリ

三十世寂遠院日通上人 字玄海

身延山歴代略譜（北沢）

父 円喜院宗悦日慶 九日」
母

師範ハ法性院日通上人要諦ノ第ナリ慶安三庚寅十二月廿三日化
山科座開祖ニシテ妙傳寺ノ十四世

山科座二世 水戸座三世 飯高座十五世（一） 京山田

真如寺開山ナリ」京妙傳寺十六世 池上二十世

但シ身延池上比企谷ノ三山兼職ス」

寛文十二壬子年池上ヨリ入山 在位八年」

稚児童弟子 玄潤日法師」

奥ノ院別当 学林院日悦」

大鐘ノ堂建立二間 寛文十三癸丑年十月八日棟札日通判形
四方 番部ヤ九尺二間施主吉市場村大久保助右衛門

二天門六間半再建立 棟札無之年曆不詳」

施主養仙院殿了榮妙護日立大姉」

七面明神本宮三間半 弊殿二間半 拜殿六間 廊下二間ニ四間
四間 御供屋三間 庫裡八間半 客寮籠リ屋 池之太神宮七尺ニ
間

隨身門三間半椎鐘 并ニ 堂九尺 四方

右一式建立通師ノ本尊宮殿之内ニ有之七面社造營

遷座」之時収之 延宝三乙卯年八月上旬八日日通

七面山神祠修營之跡大中院日孝判形有之鐘ノ施主

ハ」仙石越中守政明ノ室ナリ全銘ハ大中孝師ノ

（24ウ）

作」堂ノ施主大宮村渋谷又左衛門」

随神ノ像二鉢 通師開光施主ハ中川佐渡守久恒ノ室

ナリ」門ノ施主ハ小笠原村 内藤氏」

影向石ノ社造立 日通判形山本坊日逢小社造立ス」

塔中ノ釈迦堂九尺 延宝四丙辰十月吉日藤田盛常住
四方 施主吉町九日棟中 日通判形

奥院鐘之堂二間 延宝五丁巳十月九日棟札 日通判形

施主ハ本願 并 助願主別記」

上ノ山之金仏之釈尊ノ像 延宝五丁巳年十月十五日 施主」京

極信濃守高勝 三十世日通代造立」

〔朱字〕

「延宝五年十一月自七日至十三日一周間修三大法会十四

日施食放生会 并ニ 説法水戸靖定山久昌寺開堂供養久昌院

殿十七回忌正当也水戸公讃岐公心屈請彼地へ出向ス勤

之」

延宝七己未年二月十一日六十六才江戸瑞輪寺ニテ入寂」

〔註〕

（一） 曆峯座十五世

（二） 文政七年焼失ス

（三） 孝師ハ元政上人ノ弟子、駿州元吉原妙法寺ノ三世
瑞輪寺ノ十世小湊山廿六世水戸座西谷飯高三十一
化主 西谷在檀ノ作歟

三十一世一圓院日脱上人 字空雅

越中宇波村之産 氷見郡ナリ越後野氏氷見町蒲栗寺ノ檀越ニシテ今
主ヲ我野五平ト云フ一其ノ高祖ヨリ檀越三十余家
皆ナ我野ヲ目シ今
ニ全寺ニ属スト

母 宗府院道祐日玄 明暦三丁酉七月十一日
冥文三丁酉十月八日

師範ハ本是院日理上人 加州本是寺開山中村玄藤庵路文錄
明暦元乙未三月朔日

山科庠化主 京立本寺卅三 駿州元吉原妙法寺開
飯高十八世」後ニ甲州粟倉村寂遠山一円寺開山」

延宝七己未年京立本寺ヨリ入山 在位二十年

稚児童 竹松丸 亀松丸 兩人ハ高祖四百遠忌ノ見也」

全上リ弟子 空玄日流 元禄五壬申
十二月十一日死

奥院別当ハ不借院日命

院代 善應院日誦聖人 正徳五乙未七月六日化」但シ脱師
寺御村善應寺開山

ノ閑居所一円庵ヲ創立ス遂ニ不レ移シテ化依テ善
應院二世トナリ全庵ニテ化ス」

十二時ノ鐘 井ニ堂九尺 番寮三間 脱師代新建立」

施主ハ 豫州松山ノ城主松平越中守定長
勢州桑名ノ城主松平越中守定直

タ椎鐘」役人ノ資糧御寄附ナリ 延宝八年 庚申 中

秋日脱判

金像之祖師 日脱判 是ハ本ト安置奥ノ院ニ移ス高座石ハ

身延山歴代略譜 (北沢)

(25ウ上段)

(25ウ)

高祖四百遠忌 天和元年酉年十月七日ヨリ至十三日「七日間」
大法会執行動之

祈禱堂六間半四方 番寮二間半 廊下九尺 新建立 此地ハ
外ニシテ五尺ノク

照ノ八幡社 脱師代貞享年中新ニ建立シ為ニ天下安全
ノ古跡ナリ

妙法広布一定三十六人」僧一昼夜不斷誦ニ誦妙経ニ
日本國中發シ多御祈禱所不斷誦スル

師王ハ恐ラクハ但限ニ当山云云

本尊者祇尊五番神祖師像也 貞享四丁卯十二月廿四日
日脱判形

妙経三十六部并机祈禱堂掛リ三十六坊結衆脱師
各々勸ニ施主ニ新ニ三十六坊ヲ建立ス金子方丈ニ

預リ借シ与フ以ニ利子ニ各坊ヘ遣ニ扶持又加ニ修
覆ニ以外ニ祠堂有之悉クハ如ニ別記ニ坊名ハ

施主松平下總守清良母儀 上ノ山 瑞光坊
為ニ瑞光院菩提建立

全松平相模守光仲ノ室 全 芳心坊
芳心院殿妙英日春

全酒井遠江守母 全 慶雲坊
慶雲院殿好栄日通

全阿弥与左衛門 全 長安坊
覚樹院道喜日長

全松平下總守清良母儀 全 妙應坊
妙應院殿春貞日威

全江戸 全 法園坊
浄心寺日念聖人

身延山歴代略譜（北沢）

（26才上段）

（25ウ下段）

全不知

全 清玉坊』

全不知
不足ニ付脱師建立ト

全 忍脱坊

全御本丸梅ノ方之侍女
妙香院貞俊日玄

全 貞俊坊

全御本丸梅ノ方
妙梅院殿春光日恵

全 春光坊

全永見新右衛門
華光院詠春日陽

全 円光庵

全中川佐渡守ノ奥局
芳春院妙陽日悟

西谷 芳春坊

全京欲賀作十郎
信了院道察日源

全 信了庵

全落居村本照寺ノ隠居
本学院日栄

全 本学坊

全大宮町
渋谷平兵衛外三人

全 渋谷坊

全江戸長崎ヤ平左衛門
宗幸 妙幸

全 宗幸坊

全稲葉石見守
真善院大壽日賢

全 真善坊

全吉原渡辺市良右衛門
松久院浄玄日清

全 松玄坊』

施主紀伊大納言光貞ノ室
天真院殿妙仁日雅

西谷 仁浄坊

全江戸
円盛院妙善日修

全 妙善坊

（26才下段）

全加賀ノ侍女中山女
法蓮院妙啓日心

田代 中山坊

全野沢弥右衛門
全傳五右衛門

全 宗賢坊

全松平隠岐守母
長松院殿妙樹日栄

全 長松坊

全仙石越前守政明ノ室
清耀院円珠日浄

全 清耀坊

全江戸木内七兵衛
理心院宗林日浄

全 宗林坊』

全中川佐渡守久恒
長壽院殿妙應日慶

全 長壽坊

全富士郡清八良右衛門
父浄蓮舍兄蓮心ササノタメ

南谷 浄蓮坊

全八代前嶋三良右衛門
松樹院 観樹院

全 観松坊

全稍進川佐野五兵衛
常榮日正

全 常榮坊

全河原口村清九良右衛門
久遠日実 道作日是

稲荷 実道坊

全今村傳三郎室
高雲院了月日心

醍醐谷 高雲坊

全見塔院殿妙蓮日宝

堀沢 見塔院

全稲葉美濃守子息イク十郎
梅香院春窓日芳

東谷 春窓坊

全小河原内藤与治兵衛
清閑 妙閑

全 清閑坊

全猪根正行寺隱居
顯成院日照

東谷 顯成坊

全仙台陸奥守綱村室
萬壽院殿

中谷 仙墓坊

右三十六坊貞享年間一時ニ新建立也』

元禄四^{辛未}年四月廿八日悲田供養之新義企テ停止被
仰出事」小湊ノ日映碑文谷ノ日附谷中ノ日遼唱ニ

異流一脱師糾^ニ之公^ハ斤^ニ」

元禄六^{癸酉}年五月六日^{宗門}紫衣参内賜^ル綸旨^ニ」

追分^分脱師棟札 元禄六癸酉十一月七日道智庵日立智円日恵」

但井水者貞享四丁卯年三月十九日午刻依祖師并七面明神ノ夢想」
涌出歟此処無^キ水ニ數年願求靈感也

鼓樓^二間 新建元禄五壬申十月八日^{日脱判}」

施主武江神田ノ住信女榮壽現安後善ト」

顯主堂^{三間四方} 日脱上人ノ影堂也^{元禄八乙亥年季秋中再建立}

玄合所ノ式台新建立 施主中川佐渡守久恒ノ室」

古仏堂^{四間ニ四間半} 新建立 元禄九丙子四月日助願」三

十四人本願五人 古仏収^レ之新仏モ又有之」

靈宝藏^{三間} 拜殿^{三間半} 脱師代^形山崩^レ破損故改造之」

東宝藏^{三間} 脱師^形 右山崩^レ破損之此時陶器等損失多シ」
依テ造改之

身延山歴代略譜(北沢)

元禄十一^{戊寅}年九月廿二日七十三才谷中瑞輪寺ニテ
入寂」但身延廳取山ノ麓へ一円庵ヲ開基スト雖移
居ナクシテ化ス院代日誦居之ヲ化」

〔註〕

(1) 通脱兩尊ノ院号勘考

身延在山中横濱長者町榮玉山常清寺ノ開祖ナリ吉

田新田開闢主吉田勘兵衛^法運千院殿常清良信日良

大居士祖父安元ノ頃着手經營十有三年ニシ大成ス

埋立地石高一千三十余石万治三年村落ヲ形成ス

尚又千住運千山真養寺モ吉田氏ノ開基ト(頭註)

(3) 院代ノ始メ

(4) 明治^欠年転寺ス

(5) 文政七年焼失(頭註)

(6) 明治八年焼失(頭註)

(7) 五代綱吉公代ナリ自ハ^{身延日脱}池上日現代 但シ対決ハ無

之歟(頭註)

(8) 東山帝ナリ

(9) 上人京立本寺ニ在ヤ吉良上野ハ朝ニ事フ平常上人

ノ法席ニ伺候敬親ス上人モ亦愛撫ス身延瑞世セン

トスルヤ上野ヲ召^ソ日吾今將ニ身延エ榮転ス願ニ

吾宗未タ参内ノ儀式ニ預カラス天顔ニ咫尺スル榮

ヲ獲ス遺徳トス幸ヒ卿ハ朝廷ニ事フ吾為ニ斡旋ノ

身延山歷代略譜（北沢）

勞ヲ取レト上野飲諾ニ徹力ヲ尽シ師ノ平生ノ恩遇
ニ報ント其後遂ニ上人ノ參内ノ榮ヲ博シ日宗空前
ノ盛儀ニ預ルコトヲ獲タルハ吉良上野介ノ力ヲテ
多キニ居ルト云フ 日楹上人ノ代史中ニ際シ古
記録ヲ披キ蠶蝨殘簡中ニ偶々発見スト

昔元禄ノ當時（朱字）「元禄十五年十二月ノコト」彼力赤穂浪士ノ為ニ非命ノ最後ヲ遂タルヲ憫ミ乃十一月十四日即チ鍔殺ニ逢フヲ以テ満山大衆ノ法会ヲ修シ厚ク其怨魂ヲ吊ストナン（貼附）

(10)

東山天皇寶算二十才卜

「参内之当日ハ五月十八日ナリト」

身延山久遠寺者為日蓮法華一宗之大導故著「紫
衣令 參內宜施大乘經王之法威特 奉祈」國家
安全 宝祚延長依」

天氣執達如件」

元禄六年五月六日 右中辨

妙法華院住持日脱上人」

御房」

「又或ル書ニ参照ノ為記シ置」

著紫衣令 參內宜 奉祈 宝祚延長者依

天氣執達如件」

元禄六年五月六日

右中辨」

身延山久遠寺」

「坊城俊清力」

妙法華院住持日脱上人」

御房一

貼附

(11) 文政七年焼失ス
(12) 文政十二年焼失ス

(12) 文政十二年焼失ス

52号 「身延山歴代略譜」 正誤

361						360				359 頁段行		
	下	上				下	上			下	上	
7	1	10	17	10	5	4	16	20		2	17	
何ソヤ (註6)	推レサテ (註3)	シカシカ	為メ(註8)			宗仲カ (註8)	↓ (註5)	止メタマフ		有レ之	誤	

何ソヤ	推サレテ	シカ	為メ	宗仲カ	(削除)	止メ玉フ	である。	「宗祖」以下「すぎ」 (13行)迄は朱字書入れ	有之	正
-----	------	----	----	-----	------	------	------	----------------------------	----	---

366				365				363		362	361	頁
下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	下	段行
14	10.9	8	5	19	10	18	15	5	1	5	3	9
名、此、		日伝	為レ寺ト フルル		「文明六」より「十六 日ナリ」	池上五比企谷五	俗弟トモ	実教	先キ	貞和二丙午 (註3)	(朱学)トアリ (註1)	房州保田ニ (註6)

名、此ト		悲母……「(他の例に同じ くする)」	為レ寺、 フルム	「器」の下に「年曆不 詳……」を続ける	「文明六」 本尊入塔……	池上五比企谷五	俗弟氏	實教	先キ	貞和二丙戌	トアリ (朱学)	房州保田ニ 上行ササ 正
------	--	-----------------------	-------------	------------------------	-----------------	---------	-----	----	----	-------	-------------	--------------------

369				368				367				366	頁
下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	段行
16	8	8	4	7	1	18	15	14	11	10	8	3	2
開祖ニ 開祖ス	慶長二丁酉年		(1)井唐門	廿六日書附	染難	閑屈	五十五入寂	宝蔵院	↓	永禄二巳未	永禄元	後チ	弟子「(1)」

開祖ニ 開祖ス	慶長二丁酉年	「尊尼」より一字下げる	井唐門「(1)」	廿六日ノ書附	染難	閑居	御母……廿二日」	五十五才入寂	(削除)	寶蔵院	……西谷(私云) (註5)	永禄二巳未	永禄元	後チ	弟子「(1)」	改造之時	傳師	兩代ニ	建主ニ (立か)	建主 誤
------------	--------	-------------	----------	--------	----	----	----------	--------	------	-----	------------------	-------	-----	----	---------	------	----	-----	-------------	---------

370 頁

上

段行

1 辭

誤

大上人

聖人

同三（註3）

孝順（1）

「（3）」

妙覺「寺日奥（4）」

退院（6）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々

上座」

入寂（7）

「……旧跡」云々